

市町村名	鹿児島県日置市	
事業名	薩摩産原料を用いた白薩摩配合陶土の開発	
企業等概要	企業等の名称	有限会社 沈壽官窯
	代表者氏名	代表取締役社長 大迫一輝
	所在地	鹿児島県日置市東市来町美山 1715
	連絡先	099-274-2358
	URL	<a href="http://www.chin-jukan.co.jp/">http://www.chin-jukan.co.jp/</a>

平成 28 年 3 月現在

### 【事業者概要】

古くから続く名門である沈家を継ぐ、薩摩焼を代表する窯元で、白薩摩、黒薩摩と呼ばれる陶器を生産している。現当主は十五代沈壽官氏で、陶芸を学ぶ学生の受け入れや当社独自の学習プログラムの作成等を行っており、地元の薩摩焼を牽引する事業者である。



### 【事業概要】

#### ◇背景・経緯

国の伝統的工芸品として指定されている「薩摩焼」は 400 年以上の歴史があり、先人達は、異国の地で原料を探し、白薩摩（白い土を使って焼く薩摩焼）を生産していた事実がある。40 数年以前までは原料もすべて県内で調達していたが、流通の進化に伴い、県外、海外の原料が主流となり、今では県内での調達が行われなくなった。また、原料の産地が変わることによって、薩摩焼のもつ本来の白さが失われてしまった。

しかし、県内には原料である陶土の埋蔵量が充分にあることから、原料の再現が実現すれば、伝統工芸としての技術と本来の美しさの復活はもとより、原料、技術、生産の一貫した本物の薩摩焼として、新たなブランド展開の基となるため、今回の研究開発を行った。



十五代沈壽官作  
薩摩籠目総透筒型香爐

#### ◇研究開発の概要

県内産の原料のみを使用した白薩摩陶土を作るという失われてしまった技術を、沈家に伝わる古文書を頼りに復活させる。陶石の試掘、分析から原料を選定、陶土を試作、焼成し、試作品を作成する。最終的には釉薬を含めた 100% 県内産原料による薩摩焼の製造・販売を目指す。



上：現在の色



右：復活させたい色

## 【成果】

### ◇地域性・特徴

県内産の原料を用いて国の伝統的工芸品に指定されている「薩摩焼」を製造する意義は大変大きく、新たな付加価値として薩摩焼のブランド化が図られる。県内でも前例のない取組であり、県内はもちろんのこと県外のお産地・他作品との差別化が図られる。

今回の研究開発で完成した陶土を用いることで、薩摩焼の持つ本来の白さを再現することが出来た。また、現在使用している原料は陶石業者から購入するため、陶石に含まれる細かい成分が不明であり、トラブル発生時(黒ずみ、ピンホールの発生、切れ、変形など)に原因究明が出来なかったが、今回の研究により、成分も完全に把握しているため、問題の解決も従来よりも簡易になる。

白薩摩に使用する陶土は完成したものの、釉薬まで含めた 100%県内産にこだわった原料による薩摩焼の製造が最終目標であるため、現在、釉薬について試験調整中である。釉薬の仕様は問題なく、主に陶器との密着と焼成具合の調整(白薩摩の特徴である、貫入と呼ばれるひびの大きさ、深さの調整)を行っている。



完成した白薩摩陶土



白薩摩陶土を用いた試作品

### ◇商品化・販売先

現在は沈壽官窯という法人と、沈壽官氏個人の2つの名前で作品を売り出しているが、今後は企業活動を推進するために沈壽官窯での展開を予定している。釉薬の調整が終わり次第、「メイドイン薩摩」という新たなブランドとして、国内だけでなく海外への展開を目指す。

## 【今後の展望】

釉薬の調整が終わり次第、商品が完成する予定である。職人の高齢化や後継者不足など伝統工芸を取り巻く環境は厳しいものがある。

しかし、この事業を契機に薩摩焼の魅力、ブランド力が高まることで、他産地との差別化が図られ、さらなる販路の拡大や「薩摩焼」の知名度が上がることによる若手の陶芸家の参入、新たな客層の開拓に繋がることが期待される。



陶器制作風景